

愛郷
無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2016年05月12日号 NO.0543

写真提供：大山市

Subject：憲法記念日を過ぎましたが、日本国憲法について

日々の生活の中で、私たち凡夫が【憲法】をついて語り合うなどいう機会はほとんどありません。個人にとって憲法は雲の上の我関せぬものであって、目に見えた利害を受けず、身近に・生活の中に感じる機会がないからです。ニュース番組や新聞記事上でこれだけ多くの【改憲・護憲】の議論があっても、自分の直結するものとは全く思えません。そんな中で、著名な憲法学者である東京大学の井上達夫教授が新聞に掲載された文章が、とても本質的な部分を突かれていて腹にストンと落ちました。井上教授は改憲・護憲の議論の前に「日本人（国民一人一人）が思考停止」している現況を喝破しています。井上教授が2015年に出版した著作、【リベラルのことは嫌いでも、リベラリズムは嫌いにならないでください】は、紀伊國屋じんぶん大賞2016読者と選ぶ人文書ベスト30に選ばれ、いまだに増版を重ねているそうです。この3月には続編【憲法の涙】も出版されました。上記に併せて、憲法について知るため是非読みたい本です。

◆リベラルのことは嫌いでも、リベラリズムは嫌いにならないでください ～井上達夫の法哲学入門～

井上 達夫（著）、毎日新聞出版（2015/6/16） ISBN-10: 4620323098

【そもそも憲法って何だろう？】

以前のドヤツ（No. 0489号）でご紹介しましたが、九州大学の憲法学者である南野森准教授が先生となり、アイドルグループAKB48メンバーで慶応義塾大学生の内山奈月さんを生徒に、憲法について分かりやすく解説した以下の本には、このシンプルでいて難しい問いに対して、私たち凡夫にも分かりやすい解説がなされていて開眼の思いでした。

憲法とは国家権力（為政者・行政）が守るべきもので、国民が守るべきものではない。権力が暴走せぬよう国民が権力にはめた【たが】である。

◆PHP研究所 【憲法主義～条文には書かれていない本質】

内山奈月・南野森 共著 ISBN978-4-569-81913-6 1,200円（税別）

日本では改憲に向けて様々な動きが進む一方で、アメリカでは日米安保を白紙に戻す勢いのトランプ候補が共和党の大統領候補に決定しています。もしトランプ米大統領となれば、戦後70年が大きな転換点に向かえるかもしれない重要な岐路になるかもしれません。自分自身は憲法についてどう考えるのか？ 本質を理解した上で、自分自身の見解を持ち、それを実現してくれる為政者を選ぶべきです。地方創生の前に、地域の悪の根源である【無関心】を減らすことこそが、まずは地方生き残りの第一歩なはず。



『9条』が立憲主義むしばむ

言論界で異端視され、左右両翼から攻撃されてきた20年来の持論が今、世間の注目を集めている。正義論に立脚し、憲法から9条を削除する必要を説く法哲学者の井上達夫さん。増刷を重ねた前著の続編も刊行。「安全保障について思考停止してきた日本人が戦後70年を超えて、ようやく自分の頭で考え始めたのでしょうか。うれしい誤算です」と笑顔を見せる。

法哲学者 井上達夫さん

その問題意識は、昨年の話題作「リベラルのことは嫌いでも、リベラリズムは嫌いだならないでください」の護憲派批判に引き継がれた。

死に体

「原理主義」の護憲派も、専守防衛なら合憲とみる「修正主義者」も、9条と現実のギャップを本気で埋めようとはしない。「自分たちの安保

権の行使も容認した保守政権への憤りも隠さない。「解釈次第でどうにもなる9条は、権力を縛る立憲主義の精神を根本からむしばむ憲法の『病巣』といえる。一刻も早く切除すべきです」

第一歩

米国内で磨いた理論をベースに日本社会と格闘を始めたという。改組を整えるという。改

は、昭和天皇崩御の際の自衛隊がきっかけだった。「過去の遺物だと思っていた天皇制がますます同調圧力を生み出す現場に居合わせ、この現実足場を築く思想的な武器にならなければ、リベラリズム研究など無意味だと思っ

た」

9条の削除が無理なら、専守防衛の自衛隊を位置付ける「新9条」制定に期待し、それも無理なら、現政権の保守的な改憲発議を待つのも悪くない。新著「憲法の涙」では、誤解を恐れず踏み込んだ。正規の改憲プロセスが発動すれば、国民自身による「創憲」運動につながるを期待する。なれ合いと談合の戦後民主主義から、政策論争と政権交代の熟議民主主義へ。一歩ずつ進むと信じている。

(共同＝山下憲一)
(随時掲載)

お守り

「今の平和は9条のおかげ」という物言いで、日本人の自己欺瞞の証しだと指摘する。「平和のコスト、リスクを背負ったのは実際には自衛隊であり、米軍基地を抱える沖縄です。こつた安保の現実から目を背け、平和国家という幻想に浸るための道具として9条が使われてきた」

1954年大阪市生まれ。

自衛隊を「日陰者」扱いする

「平和主義者」への反発は、

高校時代に芽生えた。本来は

国民皆兵であるべき民主国家

で、国防に体を張る自衛隊が

なぜ差別されなければならな

いのか。経済的に苦しい家庭

で、自衛隊への就職もあり得

た10代の違和感は切実だっ

日本人の思考停止批判



「改憲派も護憲派も憲法を裏切っている」と語る井上達夫さん＝東京都文京区の東大

認識不能な真理ある

「自分の他者に対する主張は人間は誰しも間違える」という認識がある。

や行動が、自分の視点のみならず、他者の視点からも拒絶できないような理由によって正当化できるか。「こつた

という考え方が前提だとい

う。自分が独善に陥っていない

いか常に警戒し、他者の徹底



北海道を旅行する26歳の井上達夫さん＝1980年、19

した批判に身をまわして正すべきことは深く正すことで成長することができるとして

いる。

人間が認識不能な真理が存在すると知った20代の井上さん

は「全身をわしづかみにされたような衝撃」を受けたとい

う。